

(水道局連携企画)【2月23日(金・祝)のみ】  
西谷浄水場創設時の歴史的建造物の一般公開

西谷浄水場の敷地内及び近隣には、過去に水道施設として使われていた歴史的建造物が現存しています。



**【内容】**  
2月23日(金・祝)9時～16時 終日自由見学  
①西谷浄水場内歴史的建造物の公開  
1時間毎(10時、11時、12時、13時、14時、15時)に職員による解説(各回30分程度、参加費無料)を行います。解説をご希望の方は各時間に旧水道記念館入り口附近に集合してください。(右図を参照)  
※歴史的ある古伊勢駅(1月31日に募集は終了しています)とは集合場所が異なりますのでご注意ください。  
②川島町旧配水計量器室上屋の公開



## 浮世絵と巡る東海道

- 1 金沢横丁道標四基
- ↓ 2 旧保土ヶ谷本陣跡
- ↓ 3 旅籠本金子屋跡
- ↓ 4 一里塚と松並木
- ↓ 5 元町

## 丘の洋館・カトリック教会を巡る

- 17 杉浦邸
- ↓ 18 井澤邸
- ↓ 19 保土ヶ谷カトリック教会
- ↓ 「横浜の洋館付き住宅」の展示(USC)イベント開催期間中のみ
- ↓ 24 三輪邸
- ↓ 23 村井邸
- ↓ 22 斎藤邸
- ↓ 25 中島邸
- ↓ 32 帯子会館

## 近代の発展を支えた帷子川沿いの工場跡地・商店街を巡る

- 8 東洋電機製造跡、日本金属工業跡
- ↓ 9 旧帷子橋跡
- ↓ 10 橋樹神社
- ↓ 11 天王町商店街
- ↓ 12 水道跡地
- ↓ 13 富士瓦斯紡績跡
- ↓ 14 程谷曹達(保土ヶ谷化学)
- ↓ 15 大日本製薬跡(日本硝子)



## コース周辺の見どころ

1. 江戸方御印跡・江戸方御門跡は、各宿場の江戸方側の出入口に設置されていたものです。土蔵とし土蔵の間に竹木で矢張を組んだ構造をしていて宿場の範囲を複数に示していました。

2. 高札御印跡…文治2年(1166)年創建と伝えられる。大正10年(1921)年に横浜市と合併。第二次世界大戦後、隣接していた神明社を境内としました。

3. 古町頭跡…江戸時代初期の東海道は、この場所に帷子川を渡る「古町橋」がありました。帷子川の河川改修により、昭和41年に約120m北に移設されています。

4. ステンレス鋼祭壇の地…昭和7年に創立された日本金属工業株式会社によって、日本で初めてステンレス鋼の製造に成功したことを記念する碑があります。

5. 神明社…創建は平安時代中期(970年)。当地は伊勢神宮の御嶽地として寄進され、高札御印跡と呼ばれて、その鎮守として神明社が建立されました。祭神は天照大御神。
6. 7. 搀扶御印跡(生田印跡)…帷子川流域一帯では摶扶整理事業が明治26年に構成され、第二次世界大戦後、隣接していた神明社を境内としました。
8. 9. 田中橋跡…慶安2年(1649)年の東海道の区間変更に伴い今井川(川筋)が変えられ、この付近に「中橋」が架けられました。江戸時代の渡り方に現在の今井川に流れが変えられ、橋はなくなりました。
10. 同居場跡…公用旅行者の荷物の運搬(馬継立)や脚踏の業務を取り扱うところです。
11. 高札場跡…幕府の掻やお触れを貼り出す所で、宿泊代や人馬代もされいました。
12. 豊岡町(大金子屋跡)…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室101畳の部屋があり、伊豆忠敬測量隊も宿泊しました。
13. 袋本陣(藤屋跡)…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室110畳の部屋がありました。
14. 脇本陣(水戸屋跡)…本陣の補助とされた公用の宿泊所です。14室97畳の部屋がありました。

## まちかど博物館めぐらし

まちかど博物館は、旧東海道沿いに昔からお店をできる店舗です。

各店舗では、保土ヶ谷で積み重ねられてきた歴史・生活文化・なりわいのいざを語る展示しています。

販賣さんのお話や、地域の人との出会いも、まちかど博物館めぐらしの魅力の一つです。

※定休日及び、館長が不在または接客中の場合は対応できないことがあります。

※イベント開催中とは、2月23日(金・祝)～25日(日) 保土ヶ谷 イベント 検索

までの期間となります。

↑地図: スマホより

↑地図: PCより

【まちかど博物館めぐらしの約束】

まちかど博物館は、各館長の意図により運営されています。マナーを守って見学してください。トイレスはお貸しすることができます。

【まちかど博物館

## 浮世絵と巡る東海道

保土ヶ谷宿は、慶長6年（1601年）東海道に宿駅の制度が定められた際に、幕府公認の宿として誕生した。保土ヶ谷を通過する旧東海道は、芝生村造り（現在の横須賀市と区）から、境川地蔵附近（現在の藤原区との境）までの約5kmであった。

その内、宿場としてのまち歩みを残している「宿内」は、江戸方面見附（現在の大正町）から元町附（現在の岩倉ガード付近）までの約2kmである。宿内には本陣を始め旅籠や茶屋、商店が立ち並び宿場町として大いに賑っていた。葛西川筋や御川広重等によって描かれた浮世絵と共に旧東海道を歩き、遠く江戸時代に思いを馳せるのも楽しい。

### 1 金沢横丁道標四基

天明3（1783）年  
文化2（1682）年  
文化11（1814）年  
弘化2（1845）年

市登録地域に形民文化財〔平成元（1898）年12月〕  
この地は、旧東海道と金沢、浦賀往還「かなさわくまくら道」の交差点で金沢への出入りにあたったので金沢に通称「金沢横丁」と呼ばれた。金沢、浦賀往還には、弘明寺、内海山、杉田、宮園などの宿舎や観光の地に枝道にありたため、道標として西基が建立され現在も残っている。

### 2 旧保土ヶ谷本陣跡（輕部家） （主屋・通用門・蔵）

主屋：大正14（1925）年建築/木造平屋建/洋館付き住宅  
門：不明/木造平屋建/冠木門  
蔵：大正12（1923）年建築/鉄筋コンクリート造2階建/土蔵風倉庫



### 3 旅籠（はたご） 本金子屋跡（金子家）



保土ヶ谷宿の旅籠として残る建物。本金子屋は保土ヶ谷宿の旅籠として明治18年まで営業していたが、明治20年の国鉄東海道線開通に伴い、宿場の機能が徐々に失われてゆき廃止されたと伝えられる。

### 保土ヶ谷の近代水道・その他

■保土ヶ谷の近代水道（水道）  
横浜の発展のため明治16（1883）年にイギリス人土木専門家のヘンリー・パーマーに設計を依頼し、新式の「創設水道」の工事に着手した。津久井の三井に水源を求めて、西谷を経由し横川沿いの現在の水道（西谷・星川・天王町・藤原・西戸部）を通り43キロを越えて横浜まで引いてくるのだった。明治20（1887）年、全工事が完成し、我が国初の衛生的な近代水道の誕生が始まった。

■もう一つの保土ヶ谷水道  
大正12（1923）年の関東大震災の復興事業の一環として横浜市は、磯子・荏原・町田方面に配水強化を目的とした新設水道の敷設に着手し、大正15（1926）年・昭和6（1931）年にかけて完成させた。西谷・和田町で既設の水道に分歧し神戸へ保土ヶ谷駅の北側を通り、東海道、大陸隧道を抜けて南の南太田に抜ける水道である。

4 復元した一里塚と松並木・上方見附モニュメント

平成17（2005）年復元  
一里塚/松並木/上方見附

平成17年12月、横浜市の市役所で行われた「ヨコハマ市市民音頭詩歌事業」に選ばれ、平成19年2月、市民の手で「一里塚と松並木」が復元された。

### 5 元町の街なか

江戸初期（慶安元年（1648）年）から幕府のによって保土ヶ谷宿と並んで、横浜方面に開拓された熱・元町の住民が保土ヶ谷へ移始めたと伝えられる。昭和30年代までは茅葺の民家が立ち並ぶ江戸時代ながらの様な街なかが残っていた。

### 6 旧権太坂

市登録地域に形民文化財〔平成19（2007）年12月〕



旧東海道の道なりは、日本橋から保土ヶ谷宿までは平坦であったが、元町から宿まで約1キロメートルの距離が広がり、昭和の初めごろまではその景観を残していたと云う。また、現在の花の山から元町橋に至る坂道は、江戸時代以前の古東海道の「神奈川坂」であつたという説が伝わられる。

### 7 境木武相国境

市登録地域に形民文化財〔平成19（2007）年12月〕



武相国と相模国の境地（武相国境）と旧東海道が交わる地にかけて橋杭跡があつとされるなどから「境木」の地名が名付けられたとされる。篠坂を登り切った所の景色の良いこの地には茶屋があり、かつての旅人は名物の舟丹餅を食べながら疲れを癒したと伝えられる。

### 8 東洋電機製造跡・日本金属工業跡

東洋電機製造：大正7（1918）年～不詳  
日本金属工業：昭和7（1932）年～不詳

東洋電機製造  
大正7（1918）年設立。当時、機械類はほとんど英・独・米から輸入品で、第一次世界大戦後は輸入物がまもなく、東洋電機用電気機器の国产化の使命を帯びて設立され、電車のモーターを国产化した企業である。製品の車両を移動させる引込線が保土ヶ谷駅に直結して今も残されている。

日本金属工業  
昭和7（1932）年、ステンレス鋼の製造を目的として設立。日本最初のステンレス鋼の製造を始めた。工場跡地の高層住宅地への入り口に植え込みで「ステンレス鋼発祥の地」の記念碑がある。

9 旧稚子橋跡

由登録地史跡名勝天然記念物  
平成10（2008）年11月

広重などと保土ヶ谷宿を描く多くの浮世絵に描かかれている稚子橋。昭和39年の稚子川の改修以前に架かっていた稚子橋が現在の天王町駅前公園にモニュメントとして復元されている。

### 10 橋樹神社

創建は鎌倉時代1186年と伝えられ、京都の八坂神社の分霊。創建時代では「牛頭天王社」と称してたが、大正時代には「牛頭天王社」と改められた。現在の本殿は戦後再建。本殿の上にはある青銅鏡は天王鏡ともいわれる。鏡の裏面には「ようこそおこしくんとう」とは1699年（享和3年）に横浜市内最古と云われている。

### 11 天王町商店街

市登録歴史的建造物  
平成12（2000）年11月

開闢大震災復興の際、櫻子、岡村、西田、大畠方面に配水強化を図るために、保土ヶ谷町と南太田町を連結する道路をトンネルと兼用で計画・整備された。外観表面は、櫻とトスカナ式の柱部に花崗岩、その他のフランジレリを張ることにより、櫻の構造的なデザインを明確にした優れた意匠となっている。

### 12 水道跡

明治20（1887）年

明治20（1887）年に敷設された近代水道の水道（すいどう）、つまりは引水渠（いんすいきょ）である。この水道は、元町の横浜駅周辺で給水され、水道から西へ天王町駅、横濱駅通り43キロに渡り開削された。この水道は戦前「保土ヶ谷湖」と名づけられていた。

### 13 富士瓦斯紡績跡

明治36（1903）年～昭和20（1945）年

明治36（1903）年に設立され、1920年（大正9年）に盛況を迎えた。従業員6,000名を超える世界最大級の生産量を誇る製糸工場として稼働した。昭和10（1935）年の空襲で操業停止となり、戦後は米軍に接収され、横浜市に譲渡された。この跡地は現在は横浜市立天王町小学校の校舎とされている。

### 14 稲谷曹達（保土谷化学）

大正5（1916）年～昭和48（1973）年

大正5（1916）年、程谷曹達（株）創設。昭和48（1973）年に保土谷化学工業と改称した。昭和48（1973）年には工場を郡山に移転させた。

### 15 大日本麦酒（日本硝子）跡

明治40（1907）年～昭和60（1985）年

元は東京麦酒という会社が明治28（1895）年に保土ヶ谷の神戸（こうど）に移出し、明治40（1907）年にビール会社の大手である大日本麦酒買収され、ビールと汽水飲料などを製造した。昭和60（1985）年に保土ヶ谷化学工業と改称した。昭和48（1973）年には工場を郡山に移転させた。

### 16 古河電池跡

昭和12（1937）年～昭和61（1986）年

古河電気工業（株）が事業拡大にあたり、電池部門を門真に譲り、横浜市に工場を建設すべく、横浜市に工場を建設した。昭和25年には横浜市と門真が分離独立して「古河電池（株）」となる。現在は横浜市立の愛称で呼んでおり、この工場は「ビル坂」の愛称で呼んでいた。昭和61（1986）年に閉鎖。その後地元の横浜市営バス（ヒュッズパーク）と、保土ヶ谷スポーツセンターなどとして活用されている。

### 17 杉浦邸

昭和4（1929）～5（1930）年頃建築  
木造平屋建/洋館付き住宅

平屋建、中庭下部間取で、外観は全洋館様式。かつてのドア見板部の外壁と玄関部の庇の間に現存する木製の柱が、現在は柱が倒れていた。最初の屋根は木造（近世改修）であった。最初の屋根は木造（近世改修）であった。

### 18 井澤邸

昭和11（1936）年建築/木造2階建  
洋館付き住宅

昭和60年まで内科・小兒科の医者「井澤院」として営業。洋館部分を待合室として使用しており、地域に親しまれていた。洋館部分は改修されてきたが、洋館部分は改修されてきた。木造の柱が現存する。木造の柱が現存する。

### 19 保土ヶ谷カトリック教会

昭和14（1939）年建築  
木造平屋建/教会建築

パリ外国宣教會の牧師を務めており、横浜港から近い保土ヶ谷の岩崎町に開拓大災後の大正14年（1925）年にこの家を構えたと伝えられる。開拓見張りで高い洋館の作りでいる。洋館部分の屋根は切妻の上に小さな塔頭が載る「半塔屋」屋根で、軒部分には珍しいハンマー型の意匠が施されている。柱の上には松材の四方柱（くはうます）が使われており、床板にも米松の柱目材（ビーラー材）が使われているなど、材料にも当時としては先進的な工夫がなされている。村井邸は、保土ヶ谷区に残る洋館付き住宅としては最も古いもの一つで、外観や内部の造りも秀逸であることに加え、材料にも非常に良質である。また、典型的な中庭下型の洋館付き住宅で造形の規範となっており、建築史的価値が高い。

### 20 入澤邸

昭和9（1934）年建築  
木造2階建/洋館付き住宅

洋館は切妻を正面に見せ、横向きとした配置が珍しい。洋館の屋根は鐵筋フレーム瓦葺き。玄関の天井には帆船の彫刻が残る。

### 21 小菅邸

昭和6（1931）年建築  
木造平屋建/洋館付き住宅

昭和9年（1934）年建築の木造平屋建/洋館付き住宅

昭和9年（1934）年建築の木造平屋建/